

1月のおすすすめ本

『ドラえもんを本気でつくる』

【分類 2114/オ】大澤正彦/著 PHP 研究所 2020年

この本は新進気鋭の研究者である著者が、ドラえもんをつくるという夢を叶えるための未来論です。著者は子どもの頃に大人たちに馬鹿にされた経験から、その夢を隠すようになりました。しかし、大学で学んだことで実現させる自信をつけ、神経科学・認知科学・人口知能の統合研究からドラえもんについて考え、その実現に一步步近づいていきます。人間とロボットが協力しあうことができる未来を、一緒に考えてみませんか。

『マスコミ・セクハラ白書』

【分類 5209/ウ】WiMN/編著 文藝春秋 2020年

新聞社勤務の女性の事例。論説室に異動し女性やマイノリティーへの差別などを社説で取り上げました。しかし次に来た上司にセクハラを受け拒絶すると原稿が通らなくなります。産業医に相談すると「好意を持った相手に拒絶されてパワハラに転じる典型的なパターン」と言われます。

マスコミで働く女性へのセクハラ体験をまとめた本書は「人々の知る権利」のために奮闘している中での苦労がわかり、彼女たちを応援したくなります。

『字のないはがき』 【分類 6108/ム】

向田邦子/原作 角田光代/文 西加奈子/絵 小学館 2019年

絵本「字のないはがき」はお父さんとちいさな妹の心温まる実話です。戦争中原作者の妹が疎開し、その疎開先で家族に「字のないはがき」を何通も送りました。元気な時は「○（まる）」を書くようにと、お父さんが手渡したはがきが、最後は「×（ばつ）」になり、お母さんは妹を迎えに行きます。読後に、家族の絆を感じることができる感動の名作です。第1回親子で読んでほしい絵本大賞を受賞しています。